うれしの掲示板

教材文化資料館平成24年度前期展
「食育のじかん－食がつなぐもの－」

兵庫県学校給食・食育支援センター所蔵の懐かしい給食レプリカと、教科書に掲載されてきた食卓の歴史など、給食に関連した資料を中心に構成しています。食卓の風景が時代とともにどのように変わってきたかを知ると同時に、あらためて食の大切さについて考える展示になっています。

「正しいお箸の持ち方」体験や「お箸でお豆をつかもうゲーム」など子どもも大人も楽しめるコーナーも用意しています。

開催期間／8月30日㊍まで
場所／教材文化資料館（附属図書館内）
平日8:30～22:00、土曜9:00～17:00、日曜・祝日13:00～17:00
※開館時間の変更や臨時休館する場合があるので、附属図書館ホームページなどでご確認ください
問兵庫教育大学教材文化資料館 TEL 0795・44・2362

公開講座の受講生を募集

教員養成大学の特色を生かした講義内容で、皆さんの多様な学習意欲にお応えします。

日＝開講日時　所＝場所　対＝対象　定＝定員　¥＝受講料　〆＝締め切り

水あそび教室

プールで水中鬼ごっこやマット遊びなどを楽しみます。

日 7月28日㊏14:00～16:00
所 加東キャンパス（プール）
対 小学5、6年生
※25メートル以上泳げること
定 30人（申し込みが10人以下の場合は開講しません）
¥ 無料
〆 7月13日㊎まで（先着順）

絵画制作

人物画と静止画の制作を通して画法や画材の知識を深め、表現、創作の楽しさを味わいます。

日 9月15日㊏16日㊐22日㊏㊗23日㊐（全4回）13:00～18:00
所 加東キャンパス（芸術棟）
対 一般
定 20人
¥ 8,500円
〆 8月29日㊌まで（先着順）

◎申し込み・問い合わせ
兵庫教育大学地域交流推進センター
TEL 0795・44・2053　FAX 0795・44・2320
✉ office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

兵教大留学生 × 地域の家庭

⬇池見さんは「お互いが無理のない範囲で気軽に交流を楽しんでほしい」とあいさつ

⬇留学生とファミリーの名前が次々に読み上げられ、ペアが成立していく

↙数は安定している。

加東市内で米穀店を営む福田恵一さん、明美さん夫妻は、鄭丹丹さん（中国・修士課程2年）のファミリーになって2年目を迎えた。

「60半ばの夫婦に会話は少ないでしょ。だから、丹丹が遊びに来るようになって家がパッと明るくなりました」と明美さん。週1回は一緒に食卓を囲むそうで、明美さんの作るおでんはすっかり鄭さんの大好物になった。

「日本で暮らし始めて不安だったころ、お父さんとお母さんに出会いました。日常生活で分からないことがあっても助けてもらえるので、とても心強いです」と鄭さんは言う。

「加東のような小都市で、外国人と交流できる機会をつくりやすいのは兵教大があるからこそ」と池見さんは話すが、留学生の側も日本の生活習慣やしきたりなどファミリーから学ぶことは多い。言葉や文化の垣根を越えた交流は、今年も実り多きものとなるに違いない。

⬆福田さん宅でティータイムを楽しむ鄭丹丹さん。明美さんとは買い物や小旅行を楽しんでおり、この春も京都の清水寺に出掛けた

加東市国際交流協会　フレンドシップファミリー事業

留学生と〝日本の家族〟が食事やレジャーで異文化交流

⬇初対面のあいさつをしてすぐに話し込む広西さん一家と何麗湄さん（左）。長女の悠さん（右手前）は終始笑みを浮かべていた

4月26日夜、加東キャンパスの食堂で、加東市国際交流協会によるフレンドシップファミリー事業の対面式が開催され、兵教大の留学生42人が〝日本の家族〟と顔を合わせた。平成4（1992）年にスタートしたこの事業は、加東市や周辺市町から募ったフレンドシップファミリーと留学生が交流を深めるというもので、それぞれ自宅に招いて食事をしたり、地域の祭りや小旅行に出掛けたりしている。

「市民にとって気軽に異文化に触れられるのが一番の魅力です」と同協会の会長、池見清美さん。「ホームステイと違い、互いに都合がつく時間に会えばいいですし、ほとんどの留学生は日本語を流ちょうに話すのでコミュニケーションにも困りません」と続ける。

対面式ではペアとなる留学生とファミリーの名前が読み上げられ、そろってテーブルに着く。食事をしながら↘

↖らの懇談では、時間がたつにつれてあちらこちらから笑い声が聞こえてきた。

何麗湄さん（中国・特別聴講学生）と交流することになった広西英二さん一家は高校1年生の長女、悠さんのたっての希望で応募した。悠さんは昨年、加東市の交換留学生として姉妹都市の米国オリンピア市を訪問し、国際交流に興味を抱くようになったという。「日本と中国の文化の違いについて話を聞いてみたいです」と声を弾ませれば、何さんも「話しやすくて、ジョギングが趣味というのも合います。仲良くなれそうです」と笑顔で語った。

ファミリーの応募者は年々増えており、特に高校生までの子どもがいる世帯の伸びが著しいという。「留学生とのふれあいを通して、語学や異文化に関心を持たせたいと考える親が多いのでしょうね」と池見さん。一方で、20年前のスタート時から年配層世帯の応募↖

⬆あちらこちらのテーブルで会話の花が咲いた